

学年	高校3年	教科	英語	科目	コミュニケーション 英語Ⅲ	単位数	5
教科書名	Revised POLESTAR English Communication III (数研出版)			副教材名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改訂版 POLESTAR English Communication IIIワーク (数研出版)</li> <li>・新ユメタン1 (アルク)</li> <li>・WIDE ANGLE 5 訂版 BOOK4 (美誠社)</li> <li>・スクランブル英文法・語法 4th Edition (旺文社)</li> <li>・スタディサプリー English</li> </ul>		
コース・クラス	スポーツ、芸能						

### 1. 目標

3 学年時の基礎学力到達度テストにおいて長文問題の正答率 70%を目指す。

卒業時までには実用英語検定 2 級以上及び CEFR B1～B2 レベルの英語力の習得を目指す。

### 2. 授業のねらい

#### 1) 聞くこと・読むこと

- ① 日常的・社会的な話題について、使用される語句や文などから、必要な情報を聞き取り、話や文章の展開や概要、要点や話し手・書き手の意図を把握することができるようになる。
- ② 知らない単語や表現が含まれていても、前後の文脈から内容を把握できるようになる。
- ③ 重要構文は完成した和訳ができるようにしつつ、全体の文章は左から右へと読み解き、限られた時間の中で多くの文章を読むことができる速読力の向上を促す。

#### 2) 話すこと

- ① 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文など事前の準備することで、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝えることができるようにする。
- ② 教科書の文章表現を自分の言葉にして英語で説明できるようにする。

#### 3) 書くこと

教科書に出た重要構文の文法表現を用いた表現を活用し、独自の文章を書けるようにする。

### 3. 授業の進め方

- 1) 単語学習の指導方法として「新ユメタン1」を用いて直近の単語テストの範囲の単語を発音させることで必須英単語の定着を図る。単語の発音練習は、担当教員の主導のもと、毎時間授業の最初の 5～10 分間で実施する。単語によっては語源や、接頭辞、接尾辞を利用した覚え方などを指導する。
- 2) 2 学期は基礎学力到達度テストをはじめ、各試験をさらに見据え英問英答の数を増加し、本文の言い換え表現や、ライティングの技能の向上も図る。
- 3) 「スタディサプリー English」を活用し、基礎学力到達度テストをはじめとする各試験へのリスニング対策を行う。
- 4) 接続詞やディスコースマーカーなどを有効に利用し、文のつながりを正確につかめるように意識させる。
- 5) it, them, one などの代名詞が何を指しているのか常に意識させる。

#### 4. 学習上の留意点

- 1) 未知の語の意味を前後の文脈から推測したり、背景となる知識を活用したりしながら読むよう指導をする。
- 2) 基礎学力到達度テストの対策として、頻出される熟語問題の対策として、小テスト及び定期試験において「スクランブル英文法・語法 4th Edition」(英語表現Ⅱの使用教材)も活用し、その中からイディオム問題を試験範囲の一部とする。
- 3) 「スタディサブリ English」を活用し、リスニングの力を高め、定期考査にリスニングテストを含める。
- 4) 「WIDE ANGLE 5 訂版 BOOK4」を授業外課題として使い、基礎学力到達度テスト等のリーディング対策を行う。

#### 5. 定期試験

- ① 教科書、副教材の指定範囲から出題する。
- ② 基礎学力到達度テストと同じ形式の問題を数題出題する。
- ③ 授業で扱った箇所は、全体の6割程度出題する。
- ④ 初見問題(実力問題)を4割程度出題する。
- ⑤ リスニング問題を出題する。

#### 6. 評価の方法

定期試験、小テスト、提出物状況と内容、授業の取り組み方などを総合的に評価する。

7. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4     5   6   7	① Lesson 1 『The future of Nursing-Care Robots』 ② Lesson 2 『Making English the Official Language in the Office』 ③ Lesson 3 『An Appalling Waste of Food』 ④ Lesson 4 『Mastering the Art of Living』 ⑤ Lesson 5 『Understanding Communication without Words』 ⑥ Lesson 6 『How to Make Japan “Cool”』 ⑦ Lesson 7 『The Growth of Dictionaries in Japan』 ⑧ Lesson 8 『Questions without Correct Answers』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディサポート</li> <li>・英単語テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・中間試験</li> <li>・期末試験</li> <li>・スタディサプリ</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>ENGLISH 課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力到達度テスト及び大学共通テストレベルの英単語を習得する。</li> <li>・言い換え語句などを有効に利用し、英文を読む力をつける。</li> <li>・毎単元の音読、Listening 問題を重視し、基礎学力到達度テストをはじめ、他の外部試験にも対応できるようにする。</li> <li>・上記に加え、ディスコースマーカ―やパラグラフの構成をつかめるようになること。</li> <li>・英文を読み解く上で正しく因果関係をみつけることや、複数の事柄がどのような意図を持って、対比されているかなど読み取ることができる。</li> <li>・それぞれのパラグラフで述べられている主張やその根拠を読み取ることができる。</li> <li>・短い時間である程度の長さの英語の文章を読み、筆者の言いたいことを理解し、問題を解く上で必要な情報を見つけることができる。</li> </ul>

一 学 期		⑨ 基礎学力到達度テスト 対策		
	9	⑩ Lesson 9 『World Heritage Sites: Not Always a Good Idea?』	・スタディサポート ・英単語テスト	・スキミングを習得し Key word をつかむ訓練を積 んで長文を効果的に読解できる力をつける。
	10	⑪ Lesson 10 『Space Farming』	・小テスト ・中間試験	・毎単元の音読, Listening 問題を重視し, 基礎学力 到達度テスト及び大学共通テストに対応できるよ うにする。
	11	⑫ Lesson 11 『The Art of Mnemonics』	・期末試験 ・スタディサプリ	・上記に加え, スキャニングを習得し, 長文を効果 的に読解できる力をつける。
	12	⑬ Lesson 12 『Why Your Brain Wants to Help One Child in Need But Not Millions』	ENGLISH 課題	
二 学 期	1	授業なし		
	2			
	3			

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。